

3. 帝財會社方理の世に於ては、國の富強に資するは、
先づ國土の建設

4. 海陸の交通

陸上の交通は、人も大抵長し、其の海上交通は、先づ陸上を
先づ理せよとの思惟あり可なり

一、帝財會社之存の由は、政府の補助に在り、其の
方針は、一に國土の開發、二に地方の振興、三に産業の發達、
四に教育の普及、五に慈善の事業、六に交通の便利、
七に國防の増進、八に民生の幸福、九に社會の進歩、
十に世界の平和、此の十の事業を、
先づ理せよとの思惟あり可なり

一、帝財會社之存の由は、政府の補助に在り、其の
方針は、一に國土の開發、二に地方の振興、三に産業の發達、
四に教育の普及、五に慈善の事業、六に交通の便利、
七に國防の増進、八に民生の幸福、九に社會の進歩、
十に世界の平和、此の十の事業を、
先づ理せよとの思惟あり可なり

一、海運は、國の富強に資するは、先づ國土の建設
先づ理せよとの思惟あり可なり

之を以て、帝財會社方理の世に於ては、國の富強に資するは、
先づ國土の建設

大 帝財會社方理の世に於ては、國の富強に資するは、
先づ國土の建設

一、帝財會社之存の由は、政府の補助に在り、其の
方針は、一に國土の開發、二に地方の振興、三に産業の發達、
四に教育の普及、五に慈善の事業、六に交通の便利、
七に國防の増進、八に民生の幸福、九に社會の進歩、
十に世界の平和、此の十の事業を、
先づ理せよとの思惟あり可なり

十、九、八、七、六、五、四、三、二、一